

読書をする人が減っていると言われていています。調査によると、1か月で1冊も本を読まない人が60%を超えているそうです。

そもそも、人にとって「読書」とは何でしょうか？「読書」は役に立つ知識・情報を読み、それを取り入れるだけの行為なのでしょうか。1950～2010年代に展開された長野県PTA母親文庫活動では、母親たちが共に読書し、語り合う楽しみを通じて、社会の中での自己の立ち位置を問い、他者、暮らす地域とのつながりを構築していきました。フォーラムでは、そのみずみずしい読書の諸相を山崎沙織さんの研究からひもとき、「読書」の本質を考えてみたいと思います。長野県の歴史ある読書活動をたどりつつ、今と未来への図書館と読書活動について考えてみませんか？

講演 山崎 沙織さん

研究分野 図書館情報学、人文社会情報学

主な論文・共著、訳書

「読めない母親」として集うことへの分析：長野県PTA母親文庫1960年代から。社会学評論。2015. 66. 1

『続・読書と読者』読書、図書館、コミュニティについての研究成果 京都大学図書館情報学研究会, 日本図書館協会 (発売) 2019

『デジタル時代における民主的空間としての図書館、アーカイブズ、博物館』松籟社 2023 ほか

2025年3月8日 (土曜日) 13時30分から16時00分まで

会場 県立長野図書館 3階 信州・学び創造ラボ

会場への直接参加、またはZoomによるオンライン参加

申込 <https://forms.office.com/r/gN6n7n8eiC>

令和6年(2024)度信州発・これからの
図書館フォーラム第3回

読書の未来



案内ページ 申込フォーム

信州の読書の歩みを道標として



お問い合わせ 県立長野図書館 総務企画課企画係
担当：千川 TEL：026-2284939